

●ジャズの様式の変遷

ジャズは時期によってスタイルを変えてきた

(ルーツ:ブルース、スピリチュアル、ブラスバンド、ラグタイム)

1910 年代

ニューオルリンズ・ジャズ (ディキシシーランド・ジャズ)

ニューオルリンズの黒人ブラスバンドによる即興的要素の強い音楽として誕生

(ルーツは葬式の音楽 second line)

アドリブは変奏的

楽器はコルネット、クラリネット、トロンボーン、バンジョー、(ブラス)ベース、ピアノなど
ルイ・アームストロングほか

1920 年代

シカゴ、ニューヨーク、カンザスシティなどの都市に広まる

白人の参加も著しい

中心的な楽器も変化 (コルネット→トランペット、クラリネット→サクソ、
バンジョー→ギター、ブラス・ベース→ストリング・ベース)

1930 年代

スイング・ジャズ

ダンス音楽として大流行

主にビッグバンドによる

グレン・ミラー楽団、ベニー・グッドマン楽団(白人系)

デューク・エリントン楽団、カウント・ベイシー楽団(黒人系)

など

1940 年代

ビ・バップ

コード進行やリズム、アドリブの技術などが複雑化

ダンス音楽・娯楽音楽より鑑賞音楽への傾向を強める

チャーリー・パーカー、ディジー・ガレスピーなど

1950 年代

モダン・ジャズ(ハード・バップ)

音楽性・技巧性がより高度になる(大衆より「通」の音楽へ)

モード理論による主題にとらわれない自由なアドリブ

小編成コンボ中心

マイルス・デイヴィス、ジョン・コルトレーン、セロニアス・モンクなど

1960 年代

(フリー・ジャズ)

主題・コードなど一切の規則に縛られない

(「現代音楽」との関連)

オーネット・コールマンなど

1970 年代

フュージョン(クロスオーバー)

ロック、クラシックなど他ジャンルとの融合

電器・電子楽器の積極的採用

大衆性、娯楽性の回復(←→芸術性の喪失)

1980 年代以降

メインストリーム・ジャズ

1950・60 年代のモダン・ジャズのスタイルを「正統」として継承

ウイントン・マルサリスなど

その後

過去のスタイルの並列、他ジャンルとの融合、「ジャズ的なもの」の拡散